

自閉症サイエンスカフェ

「自閉症と現代社会：大学生期の自閉症早期発見と支援」

日時：平成 22 年 1 月 13 日

場所：金沢大学総合教育棟

参加者：49 名

- 1、趣旨説明 大井学
- 2、「日本の高等教育機関における発達障害の学生たち」青野透
「高知大学を例に大学生での発見と支援」鈴木健一
- 3、「本学の未診断学生の相談例」中島健二
- 4、「学生相談の現場から」岩崎
- 5、「高機能自閉症大学院生の母親の立場から」高橋和子
- 6、「大学生以降に精神科を受診する高機能自閉症スペクトラム障害」棟居俊夫
- 7、「信頼・愛着・絆の社会性認識の脳生物学的基盤」東田陽博
- 8、「統合失調症とうつ病の生物精神医学」三邊義雄
- 9、「発達障害者支援センター『PATH』の活動から考える」中島章雄
- 10、「社会で求められる力とは」加藤晴美

学生からのコメント

学生 A

高知大学での AQ でのテストに興味を持った。AQ テストをやっても良いのではないかと思う。大学生活では友人が非常に大切だし、自由な時間が増える。サークルなんかもある。だが、自閉症でコミュニケーションに障害がある場合、友人関係を築くのが難しく、充実した大学生活を送るのが難しいのではないか。

充実した大学生活のためにも、友人とのやり取りにおいても、診断を受けていた方がいいのではないか。また、自閉症特有の支援は必要。大学のうちに本人に合う道（進路）を示すためにも支援があった方が良い。

学生 B

障害を持った学生に対する大学での取り組みが色々あるということを知れてよかった。だが、私たち周りの学生の接し方がとても大切。

自閉症の学生は具体的にどのような困難を抱えているのか？そして私たちはそれに対してどのように接すればよいのか？

学生 C

自閉症の人たちと実際に接していなければ、対応の仕方がわからない。話で聞いても、周りにいないので実感が伴わない。

自閉症についての社会的な定義や理解が必要。自閉症は、「普通の人と違うところがある」という点で差別の対象になる可能性もある。

自閉症のメカニズムを解明して、大衆に「正しい認識」を広める必要がある。

学生 D

自閉症のことを考えるとき、どこまでが病気でどこからが個性なのかという問題があるが、それは非常に難しい問いである。

自閉症のスクリーニングをやってテストに引っかかる人はいるだろうが、その人たちに対して「あなたは自閉症だから」ではなく「君は面白い個性を持っているね」という対応ができる社会こそが良いのではないか。そしてそれこそが共生ではないか。